

当院にてリハビリテーションを行った方へ

当院ではより効率的なリハビリテーションを行うことを目指して、当院でリハビリテーションを行った患者さんの診療データを用いた研究を行っております。

【研究課題】

リハビリテーション医学に関する後ろ向き疫学研究 2373- (2)

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学医学部附属病院リハビリテーション科

研究責任者 東京大学医学部附属病院リハビリテーション科 教授 芳賀信彦

担当業務 研究の統括

【研究期間】

倫理委員会で承認を得てから 11 年間

【対象となる方】

1992 年 4 月 1 日以降、当院リハビリテーション科・部において診断及び治療を受けた全ての患者さん。

【研究の意義】

医学研究において後ろ向きの疫学的研究及び症例報告は医学・医療の進歩に貢献してきており、国民の健康、福祉の向上に重要な役割を果たしています。今後のリハビリテーション医学の発展のために、研究を行います。

【研究の目的】

より効果的にリハビリテーション介入を行うために、過去にリハビリテーションを行った患者さんのデータを用いて、疾患や患者背景による適切な介入方法を検討します。

【研究の方法】

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学医学部附属病院長の許可を受けて実施するものです。これまでの診療でカルテに記録されている診療情報や血液検査、尿検査、画像検査、生理検査などの各種検査、リハビリテーションの内容などのデータを収集して行う研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

【個人情報の保護】

この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

あなたの診療情報・データ等は、解析する前に氏名・住所・生年月日等の個人情報を

削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で、当研究室において芳賀信彦が、個人情報管理担当者のみ使用できるパスワードロックをかけたパソコンで厳重に保管します。ただし、必要な場合には、当研究室においてこの符号を元の氏名等に戻す操作を行い、結果をあなたにお知らせすることもできます。

★この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局まで 2021年4月25日までにご連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。ご不明な点がありましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

この研究に関する費用は、東京大学大学院医学系研究科・医学部リハビリテーション科の運営費から支出されています。

○本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

尚、あなたへの謝金はございません。

2020年2月

【問い合わせ先】

東京大学医学部附属病院リハビリテーション科 准教授 篠田裕介

住所：東京都文京区本郷7-3-1

電話：03-3815-5411（内線 35180） FAX：03-5684-2094

Eメールでのお問い合わせ：・・・todaireh-acd@umin.ac.jp